葉月

〔はづき〕令和３年８月

「月見草」「観月」「桂月」とも言われ、古くから月に生えていると信じられていた桂の葉の月という意味があります。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

一日延ばしは時の盗人

～ 上田敏・うづまき ～

今月のことば

一日延ばしは時の盗人

～ 上田敏・うづまき ～

「明日がある」「明日やればよい」という言葉がある。しかし「今日」というのは、今日限りしかない。「明日ありと思う心の仇桜（あだざくら）」で、明日あると思って油断していたのでは、結局は物に成らない。「今日という時」も今日限りしかない。「時の盗人」であってはならぬと、小さい時から教えられてきたが、私どもの人生は、時計の針のように動いてきただろうか。

こうした事を言うのは、これを読む人々に、人生で役に立つ仕事をして頂きたいと願うからである。ここまでは、どうしても今日中にやってしまわねばならぬ。明日はその先だと考え、実行していくのが、私どもの人生ではないだろうか。あとに残るのは実行の跡だけである。よい跡を沢山残した人が成功の人である。

（神道百言　一般財団法人神道文化会編より抜粋）

季節のまつり

八朔　田の実りの節供

八朔とは八月朔日の略で、旧暦の八月一日です。この頃、早稲の穂が実るので、農家の間で初穂を恩人などに贈る風習が古くからありました。このことから、「田の実りの節供」とも言われ、この「たのみ」を「頼み」にかけて、武家や公家の間でも、日頃お世話になっている（頼み合っている）人に、その恩を感謝する意味で贈り物をするようになりました。

盆踊　盆に戻った祖霊への供養

お盆の時期になると全国の至る所で盆踊りが行われます。もともとは、年に一度、文字通りお盆のときに、この世に戻ってきた祖霊を供養するために踊ることを意味します。

櫓（やぐら）を中心にして、その周りを踊る「盆踊り」は、古代日本で神様が降りてきたところを中心に、輪を作って踊ったなごりと言われていますが、鎌倉時代、時宗の開祖・一遍上人（いっぺんしょうにん）が広めた念仏踊りのように列を組んで歩きながら踊る「行列踊り」などもあります。

その代表的なものが「阿波踊り」です。

盆踊り歌とは？

ふるさとの盆踊り歌には、その土地に長い間歌い継がれたものが多くあります。その歌は、本来は盆を迎えた祖霊を慰め、またこれを送るためであったと考えられますが、今はその趣旨は精霊踊りや念仏踊りの歌にしか残っていません。多くは庶民の娯楽化した歌詞や、口説きの類で、踊る者と歌う者との交歓のためのものになっています。

歌舞は、元々鎮魂のための作法でした。盆踊りの輪踊りの形は櫓を中心していますので、神楽や巫女舞の輪踊する所作と同じようなものといってよいと思います。盆踊りの人たちが恍惚となっていく態が示されています。

今の盆踊りは拡声器やテープの音量を上げて歌いますが、昔は野良や山で鍛えた野太い、よく透る声で歌われたと思います。その肉声こそが、ふるさとの『祭り広場』たる盆踊りの踊り手らの胸に沁み透ったに違いありません。

積厚流光（せきこうりゅうこう）

積み重ねられてきたものが厚ければ、それだけその恩恵も大きいということ。祖先の功績が大きければ、それだけ子孫にも大きな恩恵が及ぶこと。

参考文献
『くらしと祭り百話』小野迪夫（神社新報社）

令和 3 年
2021年

8 月

日	月	火	水	木	金	土
1 仏滅 八朔 み	2 大安 三りんぼう うま	3 赤口 ひつじ	4 先勝 さる	5 友引 とり	6 先負 いぬ	7 仏滅 立秋 三りんぼう る
8 先勝 ● 山の日 ね	9 友引 振替休日 うし	10 先負 とら	11 仏滅 う	12 大安 たつ	13 赤口 み	14 先勝 うま
15 友引 ひつじ	16 先負 さる	17 仏滅 とり	18 大安 いぬ	19 赤口 三りんぼう る	20 先勝 ね	21 友引 うし
22 先負 とら	23 仏滅 処暑 う	24 大安 たつ	25 赤口 み	26 先勝 うま	27 友引 ひつじ	28 先負 さる
29 仏滅 とり	30 大安 いぬ	31 赤口 二百十日 三りんぼう る				

二十四節気

【立秋　りっしゅう】…七日

旧暦七月申の月の正節で、この日から暦の上では秋に入りますが、実際には残暑が厳しく、まだまだ暑い最中です。しかし朝夕は何とはなしに秋の気配が感じられます。

【処暑　しょしょ】…二十三日

旧暦七月申の月の中気で、涼風が吹きわたる初秋のころで、暑さもおさまり、収穫の候も目前となります。

六曜・選日

《六曜》

【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし

【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む

【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉

【仏滅】…万事凶、患えば長びくおそれあり

【大安】…何事をするのにも吉の日、大吉日

【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉

《選日の吉凶》

【三りんぼう】…三隣亡日、普請始め、棟上大凶日

8月の季語・時候の挨拶

炎暑、酷暑、残暑、晩夏、立秋、秋暑、新涼、早涼、向秋、季夏、処暑、仲秋／残暑の季節になりました／晩夏の候／秋立つとはいえ名ばかりのこの暑さ／残暑お見舞い申し上げます／立秋とは名ばかり。うだるような連日の残暑。お変わりありませんか。・・・など

「暑中見舞い」贈答の習慣が簡略化

暑中見舞いはもともとお盆の贈答の習慣が簡略化されたものです。かつては、お盆に里帰りする際、祖先の霊に捧げるための物品を持参する習慣がありました。それが、しだいにお世話になった人全般への贈答の習慣になっていきました。

その際、本来は直接訪問して届けるのが一般的でしたが、やがて簡略化され、手紙ですませるようになったのが、現在の暑中見舞いです。

暑中見舞いは、二十四節気の小暑（七月七日）から立秋（八月七日）にかけて送るのが通例で、立秋を過ぎたら「残暑見舞い」とします。

ちなみに、お盆の贈答の習慣は、お中元へと受け継がれています。

安産祈願　8月の戌（いぬ）の日

6日（金）／18日（水）
30日（月）

＊戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

《 8日　山の日 》

山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日です。

● 祝祭日には国旗を掲げましょう